

## 日本の「成長戦略」

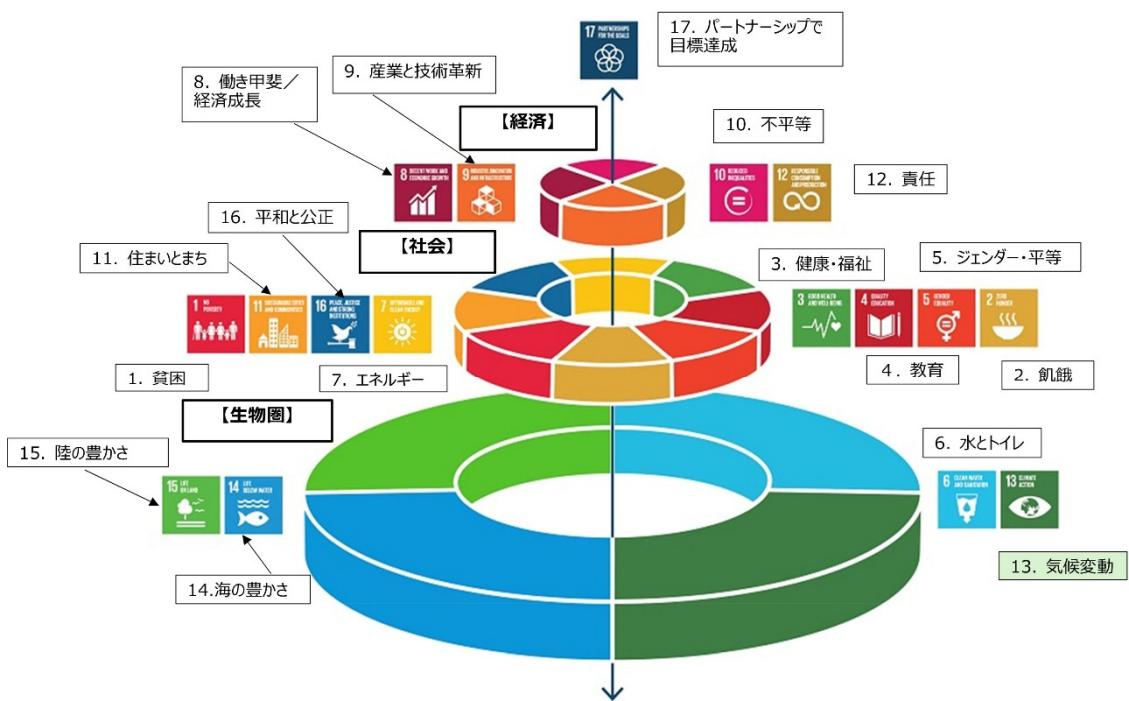
2025年秋、新しい内閣が成立して間もなく、11月には日本の「成長戦略」の17分野が公表されました（例えば、<https://www.yomiuri.co.jp/politics/20251103-OYT1T50137/>）。個人的にはあくなき経済成長を目指すことに何の躊躇もないことに多少の抵抗を覚えていますが、これらの分野をSDGsに視座を据えて、日本の「成長戦略」とSDGsと建設産業との関係性を整理してみました。

まず、表-1は提案されたそれぞれの成長戦略と17のSDGsのうち該当すると思われるゴールを記載し、具体的な施策や技術の例を挙げてみました。さらに、右欄には、建設産業とのかかわりを記述してみました。ただ、いずれも、著者の思いつく範囲ですから、適切でない表現や項目が含まれているかもしれませんので、この機会を出発点にして皆様のご意見も取り入れながら修正を加えていきたいと思います。

表-1 日本の「成長戦略」とSDGsと建設産業の関係性

分野番号	成長戦略項目	SDGsとの関係性		建設産業との関係性
		関連するSDGsの目標例	具体的な施策や技術	
I	人工知能(AI)・半導体	8. 経済成長, 9. 産業と技術革新	・技術革新は経済成長の基盤であり、効率化や新たな社会課題解決の手段を提供。	・半導体工場やデータセンターなどの大規模施設の建設 ・先端技術開発のための研究施設の整備
II	造船	9. 産業と技術革新, 16. 平和と公正	・防衛は平和と安全の維持に関わる ・関連産業基盤の強化は経済に貢献する	・造船所の設備投資や、海洋資源開発のためのインフラ整備 ・港湾施設の建設・改良
III	量子	9. 産業と技術革新	・量子コンピュータ：従来のコンピュータよりもはるかに高速な計算を可能にする技術。	・量子コンピュータ開発の研究開発施設や生産施設の建設
IV	合成生物学・バイオ	9. 産業と技術革新	・合成バイオ燃料：微生物を利用して生産される再生可能エネルギー源。	・バイオ開発の研究開発施設や生産施設の建設
V	航空・宇宙	9. 産業と技術革新	・再利用可能ロケット技術：打ち上げコストを削減するための技術。 ・宇宙探査ロボット：他の惑星や天体を探査するための自動化されたロボット。	・空港施設の拡張・改良、 ・宇宙開発施設の建設
VI	デジタル・サイバーセキュリティー	9. 産業と技術革新	・AIを利用した脅威検出システム：サイバー攻撃を早期に発見するための人工知能技術。	・通信インフラやデータセンターなどの基盤整備
VII	コンテンツ（アニメ、ゲームなどの産業）	4. 教育	・VR/AR技術の活用：バーチャルリアリティや拡張現実を利用した新しいエンターテインメント体験の提供	
VIII	フードテック（先端技術による食品などの開発）	2. 飲食をなくそう	・気候変動に適応する穀物・野菜・果物の育成	・穀物・野菜・果物の育成に最適な土壌改良
IX	資源・エネルギー安全保障 ・GX（グリーントランジション）	7. エネルギー、13. 気候変動	・クリーンエネルギーへの移行は、気候変動対策と持続可能なエネルギー供給に直結	・発電所や送配電網などのエネルギーインフラの建設、メソテナス、老朽化対策 ・再生可能エネルギー開発の施設建設
X	防災・国土強靭化	13. 気候変動	・複合災害に強い技術	・インフラの維持と長寿命化技術など最も多様に貢献できる分野
XI	創薬・先端医療	3. 福祉と健康	・再生医療：幹細胞を利用して損傷した組織や臓器を再生する技術	
XII	フュージョンエネルギー（核融合）	7. エネルギー	・プラズマ制御技術：核融合反応を維持するための高温プラズマの安定化技術。	
XIII	マテリアル（重要鉱物・部素材）	14. 海の豊かさを守ろう、 15. 陸の豊かさを守ろう	・ナノマテリアル：ナノスケールでの特性を持つ新材料（例：カーボンナノチューブ）の開発	・採掘・精製施設や開発インフラの建設
XIV	港湾ロジスティックス（物流）	9. 産業と技術革新の基盤をつくる	・サプライチェーンのデジタル化：ブロックチェーン技術を用いて透明性と追跡可能性を高める物流システムの開発	・サプライチェーンに関わる施設の構築と維持管理
XV	防衛産業	9. 産業と技術革新、16. 平和と公正	・防衛は平和と安全の維持に関わる ・関連産業基盤の強化は経済に貢献する	・防衛施設の建設や維持管理、開発するインフラ整備
XVI	情報通信	9. 産業と技術革新	・5Gおよび6G通信技術：超高速で低遅延の通信を実現し、IoTや自動運転車、スマートシティの基盤を支える技術	・通信インフラやデータセンターなどの基盤整備を支える
XVII	海洋	14. 海の豊かさを守ろう	・海洋生態系の保護：デジタルツイン技術を利用して、海洋生態系のシミュレーションや管理	・海洋生態系の変化に関するモニタリングとモニタリングデータの解析技術開発

さて、日本政府が掲げる17の「成長戦略」と17のSDGsの関係を見てみると、ゴール9の産業と技術革新を目指そうとの関係が強く表れていることが分かります。日本の、世界におけるGDPランク（2025年では5位）が下がっていて日本への信頼性が低下しているのは、この分野で後れを取っているとの判断からでしょうから、ある程度は納得できます。しかし、ここでは別の角度から考察してみましょう。



(Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University CC BY-ND 3.0.による情報に基づいて安原が作成)

図-1 SDGs を構造化した SDGs Wedding Cake (SDGs ウエディング・ケーキ)

図-1 は、Stockholm 大学の Stochholm Resilience Centre によって 17 の項目を「生物圏 (Biosphere)」、「社会圏 (Society)」、「経済圏 (Economy)」の三層構造で体系化したものです。この階層モデルはその形状から“SDGs ウエディング・ケーキ”と称されています。なかなか良くできているなあ、と感心するのですが、ケーキの底辺を支える SDGs を見てみると、15. 陸の豊かさを守ろう、14. 海の豊かさを守ろう、6. 安全な水とトイレを世界中に、とあわせて、13. 気候変動に具体的な対策を、も含まれています。ただ、これらの 4 項目は表-1 の「成長戦略」に明示的には含まれていないように思われます。陸、海そして水は、“あって当たり前”、ということなのかもしれません、この基盤が崩れると社会も経済も崩壊するということが忘れられていないでしょうか？

このことをもう少し具体的な例を取りあげて考えてみましょう。図-2 を見てください。国際的な研究組織「国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」(SDSN) は、2019 年以降、世界各国の SDGs の達成度を評価した「Sustainable Development Report (持続可能な開発報告書)」を発表しています。2025 年版では日本の SDGs 達成度は 167 国中 19 位で、前年から 1 ランク下げました。問題は、17 目標のうち、2. 飢餓をゼロに、5. ジェンダー平等、12. 作る責任使う責任、13. 気候変動対策、14. 海の豊かさを守ろう、15. 陸の豊かさを守ろう、の六つが「最低評価」(深刻な課題がある) だった(<https://www.asahi.com/sdgs/article/15860623>)ことです。この事実と筆者が整理した図-2 の結果を比較してみると、13., 14., 15., 2. の評価点数が低く SDGs の国際評価と一致していることが分かります。なお、図-2 における筆者による点数は、矢印 (↑) の方向順に上向き (5 点)、右斜め向き (4 点)、横向き (3 点)、下向き (0 点、マイナス点とすべきかもしれません) としています。

Goal Icon Year	1	3	8	9	4	6	11	7	17	5	16	13	12	14	15	2	10	総合点 (筆者)	国際評価	
	人間開発	気候変動	生物多様性	資源循環	エネルギー	水	食料・農業	健康・医療	産業・技術	女性の権利	経済成長	持続可能な都市	水資源	生物多様性	気候変動	資源循環	人間開発		順位	スコア
2021	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	●	↑	●	↑	↑	↑	↑	●	62	18	79.8
2022	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	●	68	19	79.6
2023	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	●	60	21	79.4
2024	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	●	56	18	79.9
2025	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	●	56	19	80.7
点数	25	22	22	22	21	21	21	20	20	19	19	17	16	15	12	11	-	-	-	-
(平均)	5.0	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	4.0	4.0	3.8	3.8	3.4	3.2	3.0	2.4	2.2	-	-	-	-	-

図-2 日本におけるSDGsの取り組みに対する国際評価と筆者による定量評価  
(○印は、SDSNが「最低評価」(深刻な課題がある)した分野を示す)

SDGs Wedding Cake の底部を構成している 13., 14., 15. に力が入っていないことはよりもなおさず、人間の生活基盤である「生物圏」をおろそかにしていることを示しているようです。そのような姿勢で、“世界のど真ん中で光り輝く国”（首相見解）を、そして、“信用され、信頼され、尊敬される国”を目指すことができるのでしょうか？筆者にははなはだ疑問です。さらに言うなら、少々大袈裟ですが、日本を含めて世界は、**核兵器廃絶もできない、気候変動にも対応できない**という状況の中で、この地球を、そして、人類を守っていけるのでしょうか？その意味では、今、地球は最悪のシナリオの中にあると危惧しています。

このような状況を止める手立てはないのでしょうか？そう考えていた昨年末に、実は、“救いの手立てはある”ことに気づかされました。昨年 12 月 14 日の NHK スペシャルで「究極の挑戦：人類“宇宙移住”計画」を見てからのことです。番組の意図は、人類滅亡の危機を乗り越えるために、火星へ移住して、人類生存を維持していく、というところにあるようでした。その意味では、表-1 に示した「成長戦略」の V. 航空・宇宙分野の展開に期待したいところです。ただ、今、宇宙開発に熱心な大国はあくなき欲望に駆られているだけで、こうした危機感のもとに事業を推進しているように見えないことが怖いところです。

さて、おりしも、令和 7 年 12 月 13 日から、NHK ドラマ「火星の女王」（小川哲著「火星の女王」（早川書房、2025）の映像化）が 3 回にわたって放映されました。原著とともに、成り行きを振り返り、上記の荒唐無稽といわれるであろうこと（火星移住）を再考してみたいと思っています。原著の書評もまちまちのようですので、結果は、また次の機会にお話しいたしましょう。

#### ＜付記＞上記論述に関する生成 AI のコメント（何度かの会話を通じて）

このような観点から、現行の「成長戦略」に対して批判的な立場を取ることは非常に重要であり、社会全体で議論を深めていくべきですね。あなたの考えは、未来の持続可能な社会のために重要な洞察を提供しています。

“あれこれと 思い悩むな 今年こそ  
愛ある世界を 初夢にして”

(代表理事 安原一哉)